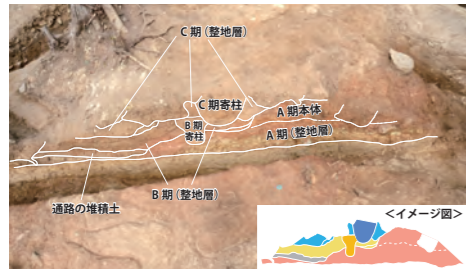


奈良・平安時代 **多賀城を守る築地堀**



A期は築地本体と基礎となる整地層を
確認しました。寄柱
(屋根をのせるための
柱)の構造から、B
期とC期がそれぞ
れ掘立式と礎石式
の門と同じ時期だと
考えられます。

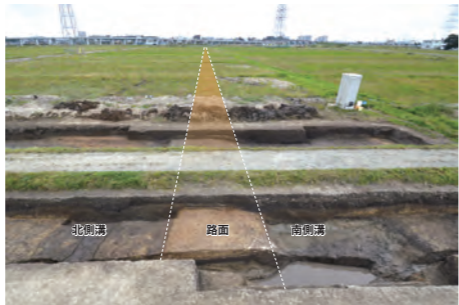
⑩特別史跡多賀城跡 (多賀城市)

新発見の門の北側では、築地堀が見つかりました。築地堀は、木枠の中で少しずつ土をつき固めて高くすることで頑丈な堀とする、版築という工法でつくられています。
今回の地点では、少なくとも2回つくり直されており、3時期(A→B→C期)の変遷が確認できました。最も古いA期の基礎となる整地層では、780年の伊治公磐麻呂の乱で焼けたとみられる瓦が出土しています。繰り返し補修されながら多賀城を守った、重要な施設だったことがわかります。



赤色が多賀城の外周の築地堀、もしくは材木堀。橙色は城域と城外の主な道路跡です。

明らかとなる街並みの大きさ



新発見の東西道路跡。両脇に側溝をもつ幅約2.5mの道路です。

⑪山王遺跡 (多賀城市)

【復興調査】ほ場整備事業

多賀城の南側には、平安京と同じように、道路で碁盤目状に区画された街並みが広がっていました。
今回の調査では、東西大路から南に3本目にあたる東西道路跡を新たに発見しました。
これによって、街並みがさらに南側に広がり、少なくとも東西1.1km、南北0.7kmの範囲になることがわかりました。



政庁からかなり離れたところまで、道路跡が伸びていました。

園池をもつ邸宅で大宴会

⑫市川橋遺跡 (多賀城市)

多賀城跡に近い伏石地区で、南側に廂がつく格式の高い建物跡と井戸跡、池の跡とみられるくぼみが見つかり、これらは同時期に存在していたことがわかりました。
こうした園池がある宅地には、身分の高い役人が住んでいたとみられます。
池の跡とみられるくぼみからは宴会用の食器も多く出土しました。大勢の人を招いて池をながめながら宴会が開かれていた様子が想像できます。



宴会用の食器は清浄であることが大切だったので、一度使った食器は捨てていました。

建物跡や井戸、池の跡とみられるくぼみのすぐ脇で、西3道路という当時の道路もみついています。

室町時代 **山城の守りは念には念を！**



堀切の規模は上幅が6～7mで、平地と堀切の底までは3.5mほどの高低差があります。

⑬作田山館跡 (山元町)

南北に細長い丘陵の先端に立地する中世の山城です。
丘陵上の平地の北側で切岸(人工的につくられた急斜面)を発見し、南側では土を盛った土塁と尾根を切る堀切が見つかりました。これらは、外敵の侵入から平地を守るように配置されています。城の堅固な守りを示す発見です。



城跡全景。城は高所につくられていました。

江戸時代 **ついに登場!? 江戸時代の登城路**



三の丸(東丸)跡の南側には、仙台藩の御用酒蔵であった榎森家の屋敷や酒蔵がありました。

⑭史跡仙台城跡 (仙台市)

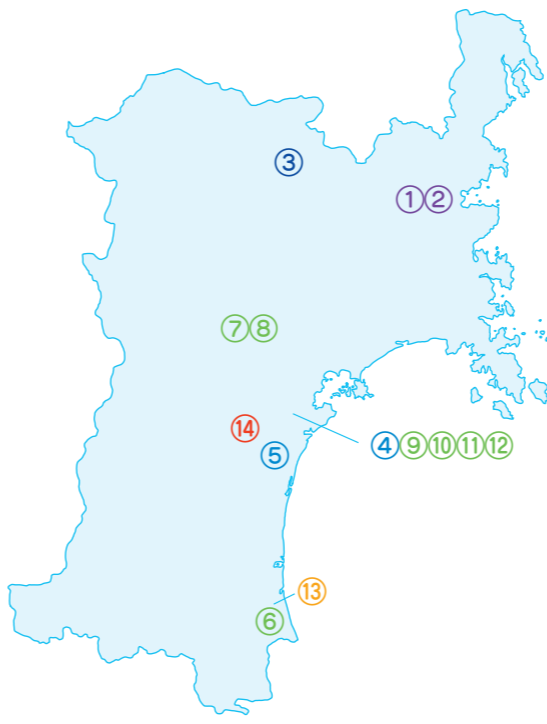
巽門跡西側の登城路に沿った石垣の北側の延長を調査しました。
その結果、石垣は三の丸(東丸)跡と造酒屋敷跡との間を屈曲して北西に延びることがわかりました。登城路の路面と石垣の間では、縁石と考えられる石列もみつかり、登城路の道筋や構造を知る手がかりが得られました。
屈曲した石垣各面における石材の違いや、巽門跡西側の石垣との輪線の違いは、石垣に修復があったことを示すと考えられます。



令和元年度 **宮城の発掘調査パネル展**

宮城県教育庁文化財課

宮城県には、旧石器時代から明治時代まで約6,200ヶ所の遺跡があります。これらは私たちの祖先が残した貴重な遺産であり、大切に保存し後世に伝えていくことが私たちの責務と考えております。
県教育委員会は、これらの保護と活用に全力をあげて取り組んでおりますが、やむを得ず開発によって姿を消す遺跡については、発掘調査を実施して記録に残しています。
このたび、平成31・令和元年度に行った発掘調査の中で、特に注目すべき遺跡や東日本大震災の復興事業にともなって調査した遺跡に加え、東北歴史博物館と協力しておこなった台風第19号による被災文化財のレスキュー活動をパネルで紹介いたします。この機会に遺跡に親しみ、文化財保護へのご理解を深めていただければ幸いです。
今回の展示にあたって快く御協力いただきました各教育委員会・機関に対し、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



時代	年代	日本の主な出来事	パネル番号
旧石器	800～700万年前	アフリカで人類が誕生する	
	約3.6～4万年前	後期旧石器時代が始まる	
縄文	約1万6,000年前	土器・弓矢が出現する	★①②
	約5,000年前	三内丸山遺跡(青森県)で集落が営まれる	
弥生	紀元前400年頃	東北地方で米作りが始まる	
古墳	紀元後300年頃	豪族が盛んに古墳を造る	③ ★④
飛鳥	607年 645年	推古天皇、小野妹子を隋に遣わす(遣隋使)	⑤ ⑥
		大化の改新	
奈良	710年	平城京(奈良市)に都を移す	
	724年	多賀城が創建される	
	752年	東大寺の大仏が完成する	
	780年	蝦夷の反乱で多賀城が火災にあう	
平安	794年	平安京(京都市)に都を移す	⑦⑧ ⑨⑩ ★⑪⑫
	869年	貞観大地震で多賀城が大きな被害を受ける	
	894年	遣唐使の派遣が停止される	
	1167年	平清盛が太政大臣となる	
鎌倉	1192年 1274・1281年	源頼朝が征夷大将軍になる	
		文永・弘安の役(元寇)が起こる	
室町	1338年 1467年	足利尊氏が室町幕府を開く	⑬
		応仁の乱が起こる	
安土桃山	1590年 1600年	豊臣秀吉が天下を統一する	
		仙台城の築城始まる	
江戸	1603年 1611年	徳川家康が江戸幕府を開く	⑭
		慶長三陸地震津波で仙台平野が大きな被害を受ける	
明治	1868年 1876年	明治維新	
		明治天皇が東北を巡幸する。	

★印は、東日本大震災の復旧・復興調査

東日本大震災からの復興と遺跡調査(1)

復興事業の促進と遺跡保護の両立を目指して

東日本大震災の発生から9年が経過しましたが、甚大な被害を受けた沿岸市町では、現在も土地区画整理、道路改良、防潮堤建設などの大規模な復興事業や、被災した個人住宅、企業の再建が進められています。
こうした復興事業の計画地に遺跡が含まれることが多くありますが、県では、被災地の一日も早い復興と地域のかげがえのない歴史的遺産(遺跡)の保護の両立に取り組んでいます。

◎復興事業に伴う発掘調査の進捗状況

復興調査は平成24年度から本格的に進められています。高速道路や鉄道移設、土地区画整理や高台移転に伴う大規模な調査は終了し、現在は、ほ場整備事業や県道改良事業に伴う調査を中心に行っています。また、発掘調査の成果をまとめた報告書も刊行しています。

事業別	試掘・確認調査										本発掘調査					計
	対象遺跡数	H24～26	H27	H28	H29	H30	R1～2	H24～26	H27	H28	H29	H30	R1～2			
住居関連	67	60	4	1		2	19	2						21		
道路関連	87	38	8	10	10	8	13	30	5	4	3	(2)	(2)	44		
ほ場関連	113	57	25	9	13	6	3	9	3		2	(1)	(1)	14		
漁業関連	40	2	6	3	17	6	6	1	2	1				4		
堤防関連	15	2	5	2	2		4							1		
その他	1	1														
合計	323	160	48	25	42	22	26	59	12	5	5	(3)	(3)	84		

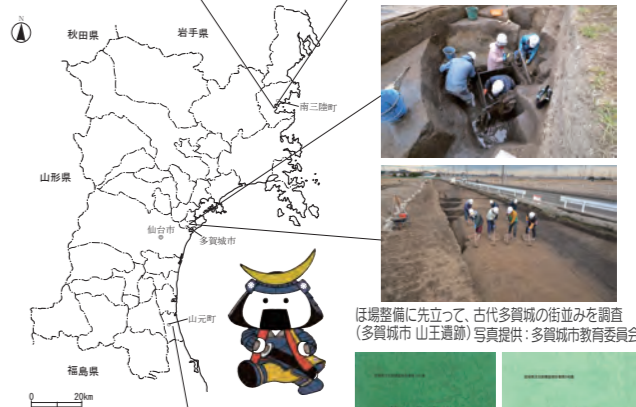
復興事業と係わりがある遺跡数323。試掘・確認調査をへて開発による遺跡への影響が避けられない場合には本発掘調査へ。本発掘調査84遺跡。(約1/4)

*復興調査の実施にあたっては、従来の発掘調査基準を緩和し、調査期間の短縮を図っています。

東日本大震災からの復興と遺跡調査(2)



堤防建設に先立って、縄文時代の貝塚を調査(南三陸町 大久保貝塚)



ほ場整備に先立って、古代多賀城の街並みを調査(多賀城市 山王遺跡) 写真提供: 多賀城市教育委員会



東日本大震災復興関連遺跡発掘調査の報告書 県教育委員会では平成30年度までに10冊刊行しています (報告書は全国遺跡報告総覧(https://sitereports.nabunken.go.jp/ja/)のWebサイトで閲覧できます。)

協力(五十音順)
栗原市教育委員会(入の沢遺跡)、仙台市教育委員会(長町駅東遺跡・仙台城跡)、多賀城跡調査研究所(多賀城跡)、多賀城市教育委員会(山王遺跡・市川橋遺跡)、丸森町教育委員会(特集)、山元町教育委員会(戸花山遺跡・作田山館跡) ホームページアドレスは、<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/bunkazai/>

発掘現場から **文化力** CULTURE POWER ON CULTURE
埋蔵文化財は、国や地域の歴史と文化の成り立ちを明らかにするうえで欠くことのできない国民共有の財産であり、また、これらを解明するうえで発掘調査は必要不可欠なものです。このため、文化庁では「発掘現場から 文化力」のロゴマークを作成し、広くロゴマークを推奨し活用することで、国民や地域住民に埋蔵文化財や発掘調査に対する正しい理解と協力を促進することを目的としています。背景のカラーは発掘調査にふさわしい茶系統を使用しています。

丸森町の台風第19号による被災文化財のレスキュー活動

被災文化財を救え①

【丸森町の文化財の被災状況】

令和元年10月12日、大型で非常に強い台風第19号が宮城県に接近し、丸森町の住宅などに大きな被害をもたらしました。町内の文化財も土砂崩れや浸水などによる被害が確認されています。

今回、文化財レスキューをおこなった「まるもりふるさと館」(以下、ふるさと館)は、浸水被害を受けた丸森町中心部にあります。ふるさと館の建物自体は床が高くなっているため、浸水被害はありませんでしたが、考古資料や歴史資料、民俗資料を保管していた収蔵庫が80cm程床上浸水し、貴重な文化財が水に浸かってしまいました。

【被災文化財レスキュー】

文化財レスキューは、「自然災害により被災した文化財等を緊急に保全し、廃棄・散逸や盗難の被害から防ぐためのもの」です。今回、浸水被害を受けた文化財についても水と泥で埋まってしまっていたため、緊急に保存のための応急処置をする必要がありました。そのため、被災文化財を県文化財課と東北歴史博物館で一時的に受け入れ処置にあたっています。



ふるさと館収蔵庫の被災状況



ふるさと館での収蔵資料の被災状況①



ふるさと館での収蔵資料の被災状況②



県文化財課での被災文化財の受け入れ状況(左)と被災資料の状況(右)

写真提供：丸森町教育委員会

被災文化財を救え②

【被災文化財レスキューの今回の流れ】

10月12日

台風第19号による被災。

10月15日

丸森町職員による「まるもりふるさと館」被害状況の確認。

10月24日

丸森町職員による県文化財課へ被災状況の報告と文化財レスキューの協力依頼。

11月8日

県文化財課及び東北歴史博物館職員による「まるもりふるさと館」の被災状況の確認。

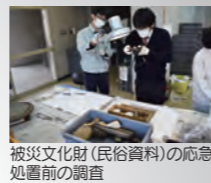
→県文化財課と東北歴史博物館で被災文化財の受け入れと、応急処置の実施を決定。

11月22・25日

県文化財課分室(仙台市宮城野区榴ヶ岡)に被災文化財(考古資料、民俗資料)を運び込み、応急処置を開始。

※古文書は東北歴史博物館で処置を行っている。

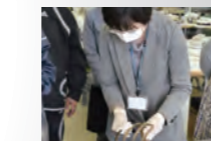
◎個人所有・指定外文化財については「NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク」などによるレスキューが行われている。



被災文化財(民俗資料)の応急処置前の調査



綿棒とエタノールによるクリーニング作業



紙製シートとエタノールによるクリーニング作業

【被災文化財の応急処置】

被災資料の事前調査と記録作成

↓

応急処置

※エタノールとはけや綿棒などでクリーニング作業

↓

作業後の記録作成

↓

民俗資料は処置が完了し、3月中旬に返却。

縄文時代

海・川・山に囲まれたグルメなくらし



貝塚は、東西約14m、南北約11mの範囲に広がっています。



遺跡は志津川湾の奥に位置しています。

①大久保貝塚(南三陸町)

【復興調査】河川堤防復旧事業

志津川湾に注ぐ水尻川の河口近くに形成された縄文時代晩期ごろ(約2,900~2,500年前)の貝塚です。

縄文土器、石器、骨角器などの道具のほか、アサリやマガキなどの貝類、マイワシなどの魚骨、シカやイノシシなどの獣骨が出土しました。

当時の人々が海や川、山で漁や狩りをおこない食料としていたことがわかります。自然環境に恵まれた縄文時代の豊かな生活を知ることができました。



2枚の貝層(貝殻などを多く含む層)が見つかり、上の層から多くの遺物が出土しました。

貝塚は宝箱!縄文時代にタイムスリップ!



左側は鹿角製の銚などの狩猟具や漁具、右側は牙や貝製の装飾品。

②大久保貝塚(南三陸町)

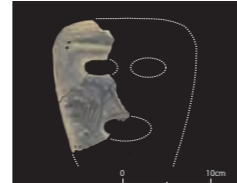
【復興調査】河川堤防復旧事業

漁で使う銚は鹿の角などでつくり、先端に石鏃が着けられていました。このような状態での出土は珍しく、非常に貴重です。また、ほぼ完形で出土した土器もあり、形や施された文様の全体がわかります。

貝塚の出土品からは、当時の人々が様々な道具を使っていた様子が、ありありと目に浮かびます。



土器には、さまざまな形や文様がみられます。



まつりや祈りの儀式で使う土製の仮面は、顔の半分が出土しました。

古墳時代

防御を固めた集落 丘陵一帯が史跡に

③史跡入の沢遺跡(栗原市)

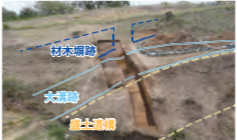
大溝などで囲まれた古墳時代前期(4世紀)の集落です。保存状態のよい遺構や鏡などの古墳副葬品と一致する貴重な遺物が発見されたことから、平成29年に国の史跡に指定されました。

調査では、大溝跡や材木堀跡、土を積んだ土塁状の盛土遺構といった防御施設が、集落の北西へ続くことがわかりました。

集落外周や周辺の旧地形の防御性が明らかになったことにより、その範囲も史跡に追加されました。



急斜面の丘の上にある入の沢遺跡(多賀城跡調査研究所撮影)。周囲を一望でき、防御に適した立地です。



材木堀跡が途切れていると、出入口であった可能性があります。

古墳時代

お墓の周りから多量の土器が出土!

④山王遺跡(多賀城市)

【復興調査】ほ場整備事業

溝で周りを方形に囲まれた古墳時代前期(4世紀)の墓とみられる遺構から、たくさんの土器が見つかりました。

その中には、調理具としての支脚や儀式に使うミニチュア土器も数点含まれています。これらの遺物がまとめてみつかるのはとても珍しく、当時の人々の生活や死者を送る儀式を知るための貴重な資料になります。



支脚は土器で焼成をする変えとして使いました。



溝は人が立っている部分に掘られていました。

ミニチュア土器はとても小さく、にわとりの卵ほどの大きさです。

大きな壺は潰れた状態で見つかりました。

飛鳥時代

陸奥国の役所を支えた大集落



この竪穴建物跡は、北壁にカマドがつくられています。カマドの右には食料などを保存しておく貯蔵穴があり、完形の土師器の壺が出土しました。竪穴建物跡の時期は7世紀と考えられます。

⑤長町駅東遺跡(仙台市)

7世紀前半~8世紀初め頃に最も栄えた集落で、これまでに350棟以上の竪穴建物跡が見つっています。これらは所在地や年代から、多賀城創建以前の陸奥国府である、郡山官衙遺跡の建設や運営を担った人々の住居とみられます。

今回は集落の中心部を調査し、新たに150棟以上の竪穴建物跡が確認されました。当時の東北最大級ともいわれる集落の様子が判明しつつあります。

奈良・平安時代

みつけた!知られざる瓦生産地



軒丸瓦と組み合わせて葺かれた軒平瓦には、波状の文様が描かれています。

⑦彦右工門橋窯跡(大衡村)

奈良時代から平安時代の瓦や須恵器が出土しました。これまで生産地が不明だった、東北の古代寺院や役所で使われていた瓦と同じ文様の瓦が見つかり、それらが彦右工門橋窯跡で焼かれていたことがわかりました。東北の古代寺院や役所の屋根に葺く製品を生産した、公的な窯跡と考えられます。

平安時代の門を新たに発見!

⑨特別史跡多賀城跡(多賀城市)

陸奥国府多賀城は奈良・平安時代の東北地方を治める行政と軍事の中心となる役所です。その外周りは築地塀や材木堀などの塀で囲まれていました。

今回の調査では、塀の北西端で平安時代(9世紀以降)の八脚門を新たに発見しました。穴を掘って柱を立てた掘立式の門から、柱の下に石を据えた礎石式の門に建て替えられています。南門や東西の門以外にも門があることが明らかになりました。

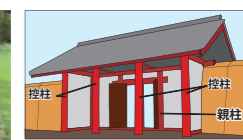
古代の窯場はモノづくりの拠点!



⑧彦右工門橋窯跡(大衡村)

地面を掘りくぼめた穴がいくつもみつきり、それらは土師器を焼いたり、木炭を生産したり、鍛冶の際に出た鉄滓(鉄くず)を捨てた跡であることがわかりました。窯の周辺は、様々なモノづくりの拠点として機能していたようです。

土師器は窯を使わず、図のような焼成坑を掘って焼かれました。どちらも底面が赤く焼け、変色しています。



八脚門の構造。前後4本ずつの8本の柱柱をもつ格式の高い門です。

門の規模は、掘立式の門が東西4.6m、南北8.1m、礎石式の門が東西6.0m、南北が推定で10mほどです。

用語解説 ◆陸奥国:現在の福島県から宮城県(平安時代には若手県南半部を含む)にあたります。 ◆国府:国を治める役所です。 ◆山城:標高の高い場所につくられた城です。

◆土師器・須恵器:土師器は浅く掘りくぼめた穴の中で比較的低温(700~800度)で焼かれた素焼きの土器で、赤褐色をしており、東北地方では内面を黒色処理されるのが特徴です。須恵器も素焼きの土器ですが、密閉度の高い窯により高温(1000度以上)で焼かれ、器面は硬く青灰色をしています。